

Major Ocular Abnormalities Among Hemodialysis Patients in Indonesia

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2022-06-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Widjaja, Sauli Ari メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002748

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2461 号

The Prevalence and Risk Factors of Major Ocular Abnormalities Found Among Hemodialysis Patients in Tertiary Hospital, Indonesia

血液透析患者における眼異常所見有病率と危険因子～インドネシアの三次医療機関における検討

Sauli Ari Widjaja (さうり あり ういじゃや)

博士 (医学)

論文内容の要旨

血液透析 (HD) を受けている末期腎不全患者には特有の眼所見が認められるとの報告があり、眼異常所見の存在は、疾病や代謝の状態を反映した指標としての役割も期待される。

我々は、インドネシアにおける HD 患者の主な眼異常所見 (白内障、結膜・角膜石灰化 (CCC)) とその危険因子についての検討を行った。対象は、インドネシアのスラバヤ地方の三次医療機関である Dr. Soetomo General Academic Hospital の透析患者である。基本属性、既往歴、眼異常所見 (白内障と CCC の有無) について調査を行い、それぞれの眼所見に対する危険因子について、一般化推定方程式をロジスティック回帰モデルに組み込んだ両眼モデルを作成し、検討を行った。

全対象 318 眼 (159 人) の内訳は男性 54.7%、女性 45.3%、平均年齢は 51.6 ± 11.3 歳、平均 HD 期間は 3.5 ± 3.2 年であった。高血圧は 81.1%、糖尿病は 34.6% に認められた。主な眼異常所見として、白内障 (206 眼、64.78% (95%信頼区間 (CI) 59.53-70.03))、次いで CCC (135 眼、42.45% (95%CI 37.02-47.88)) が認められた。多重ロジスティック回帰分析の結果では、白内障と有意な関連を示した危険因子は、高学歴 (調整オッズ比 (OR) 0.17、95%CI 0.04-0.74)、高血圧 (OR 0.15、95%CI 0.03-0.79)、糖尿病 (OR 10.49、95%CI 1.57-70.06)、収縮期血圧 (SBP) 120-129mmHg (OR 0.05、95%CI 0.003-0.69)、SBP \geq 140mmHg (OR 0.05、95%CI 0.004-0.67)、拡張期血圧 (DBP) 80-89mmHg (OR 7.44、95%CI 1.13-48.73)、DBP \geq 90mmHg (OR 48.47、95%CI 3.4-692.03) であった。一方、いずれの危険因子も CCC とは有意な関連を示さなかった。

本研究から、インドネシアにおける HD 患者の主な眼異常所見は白内障と CCC であり、HD 患者に発症する白内障の主な原因は糖尿病と高い DBP であることが示された。HD 患者における定期的な眼科検査の重要性が示された。